

## 序 議 錄

## 会議の経過・結果

### 1. 開会

### 2. 報告

#### (1) 職員の旧姓使用について

総務部長が資料に基づき説明した。

#### (2) 伊達市名誉市民条例について

総務部長が資料に基づき説明した。

### 3. その他

#### (1) 特別職主要業務予定、各部主要業務・行事予定（1月上半期）

#### (2) その他

### 【市長より】

仕事始めの式でも話をしたが、箱根駅伝での黒田朝日選手の「練習以上の力は出せない。」という言葉が印象的だった。黒田選手は、とても才能がある選手なのに、日々の努力がなければ力は出せないと話している。市の仕事についても、準備や調査、学習をしっかりととした上でないと、前には進まない。私の座右の銘は「人事を尽くして天命を待つ」という言葉である。全ての物事は、しっかりと準備をした上で、うまくいく場合もあるし、時にはうまくいかない場合もあり、それはやむを得ないことである。しかし、まずは人事を尽くすことが仕事の上でもスポーツ、学習の上でも重要であり、やることをやったと思えば、後悔はしないのかと思う。まずは、やるべきことをしっかりと行った上で、あとは天命を待つことが大切である。今年1年、平穀な日々であることが一番であるが、大きな災害が待ち受けているかもしれない。しかし、そういった状況を想定した上で、準備を進めておくことが重要である。

今、課題とすることは、少子化である。若い世代がいかに定着するかということが重要である。若い世代が定着するためには、暮らしやすいまちを作っていくことが重要で、暮らしやすいまちというのは、便利なまち、人に優しいまち、豊かさが感じられるまち、この3つを進める必要がある。便利さというのは、公共交通の充実を図り、国道、市道などの道路の整備や維持管理も重要であり、生活する上での便利さを進めていく必要がある。人に優しいというのは、SDGsの基本理念の中に、誰一人取り残さない社会の実現であるが、そこが重要である。伊達市では高子駅北地区に全世代・全員活躍のまちということで、子供から高齢者、そして障がいをもつ人全ての人が暮らしやすいまちにしていこうという理念で進めている。医療、健康、商工、介護、子育て、教育など各種施策を充実させ、人に優しいまちづくりをしていくことが、これからの中づくりの重要なポイント

トである。豊かさというのは、豊かさを感じられるまちとして伊達市が注目を集める必要がある。農業については、ブランド力を向上させることが重要である。そのために、担い手を確保し、生産力を上げていけるようにスマート農業を進めていく。商工業においては、商店街が非常に厳しい状況であり、空き店舗が多くなっている。伊達イノベーションサポートセンターも設立されたので、そこで支援をすることも重要だし、どんな仕事が若い世代に好まれるのかをしっかり調査した上で、企業誘致を進めていくことも必要である。国では、高性能の半導体の分野に焦点を当てて進めていくこうとしている。そこに手を挙げ、伊達市に誘致してくることも必要なのかと思う。また、浜通りでは、F - R E I が設立されたが、これは浜通りだけの事業ではなく県全体の事業であり、F - R E I で取り組んでいる技術を伊達市で進めていくことも一つの豊かさの実現のきっかけになる。このように、今年1年、皆さんと協力をしながら、便利で、人に優しく、豊かな伊達市にしていき、選ばれるまち、暮らしやすいまちづくりを進めていきたいので、よろしくお願ひしたい。

#### 4. 閉会